

科目名		聴覚系の構造・機能・病態			授業の種類	演習	講師名		
授業回数	15回	時間数	30時間	(1単位)	配当学年・時期	言語聴覚士科2年		必修・選択	必修
〔授業の目的・ねらい〕									
聴覚系の抹消から中枢にいたる構造や神経機能、病態などを学ぶ。									
〔授業全体の内容の概要〕									
基礎的学習として神経生理学を終えてから聴覚系の構造・機能とその病態と障害を学ぶ。									
〔講師の実務経験〕									
〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕									
本科目は言語聴覚の根幹を成すものであり、したがって学習者に相応の努力を（毎回の予習と復習）が求められる。そのため授業への集中度をチェックする方策を導入する。									
回数	講義内容								
1	神経系の構造								
2	シナプス伝達								
3	少数のニューロン回 反射								
4	運動系の統合機構								
5	外耳と中耳								
6	蝸牛 ①								
7	蝸牛 ②								
8	聴神経 ①								
9	聴神経 ②								
10	蝸牛の変換機構と興奮機構 ①								
11	蝸牛の変換機構と興奮機構 ②								
12	脳幹神経核								
13	聴覚皮質								
14	遠心路								
15	感音性難聴								
【 準備学習・時間外学習 】									
【 使用テキスト 】									
書籍名					著者名		出版社		
病気がみえるVol.13 耳鼻咽喉科							メディックメディア		
【 単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など） 】									
試験の結果を100点満点として成績を評価する。試験は定期試験のみ実施とし、60点以上の場合に科目を認定する。									